

青年農業者会議開催

近畿ブロック発表者を決定

大阪府と大阪府4日クラブ連絡協議会は、3月25日に青年農業者会議を開催し、農業青年プロジェクト活動優良賞を5人に、完了賞を2人に交付した。

来年、近畿ブロックで実施される発表会に向けた大阪代表を推薦するため、プロジェクト活動優良賞を受賞した者のうち2人と、青年農業者が日頃考える意見について2人が発表し、大阪府「農の匠」の会西川光一会長他4人の審査員で審査した。その結果、プロジェクト発表では、柏原4日クラブの稲山純

生さんが、今後のぶどう栽培の規模拡大に向けて、IoTを活用した水位監視センサーとハウス自動開閉装置を市販機器より安価で高機能に開発、自作するノウハウを確立した活動が大阪代表として推薦された。

意見発表では大阪府4日クラブの藪崎嘉子さんが農家と子供たちが協力して大阪産(もん)の商品開発し、ふるさと納税の返礼品として活用する事例を発表し代表に選ばれた。

また、第2部として香川県小豆島のオリーブ農家の井上誠耕

園の井上智博園主が講演した。4日クラブ員からは、従業員には仕事の丁寧さと速さのどちらを優先して指示すべきかなど多くの質問が出される熱のこもった講演会が開かれた。



プロジェクト発表で大阪代表に推薦された稲山さん(右)と、意見発表で大阪代表に選ばれた藪崎さん(左)

天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員

森田 彰朗

第十四回

「農産物の高温障害」

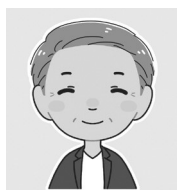
今年の暖候期予報

気象庁では毎年2月末にその年の夏(6～8月)の天候に関する予報(暖候期予報)を出しています。今回はその予報を元に、この夏に予想される農作物の高温障害について解説します。

気温が高い確率70%

図をご覧ください。暖候期予報の解説図ですが、前号で「掛け布団二枚重ね」と紹介した、上空のチベット高気圧が今年も発達しそうです。また、海水温も上がって、高温になる条件がそろい、気温が平年より高い確率が70%と予想しています。

今の時点では、台風や線状降水帯の予報が困難なので、雨量



予測は難しいのですが、高温乾燥状態が懸念される状況です。

高温障害はなぜ起こる?

農作物の高温障害には、植物の蒸散や気孔の開閉が深く関わっているとされています。高温になることが以下の原因となり、障害が発生します。

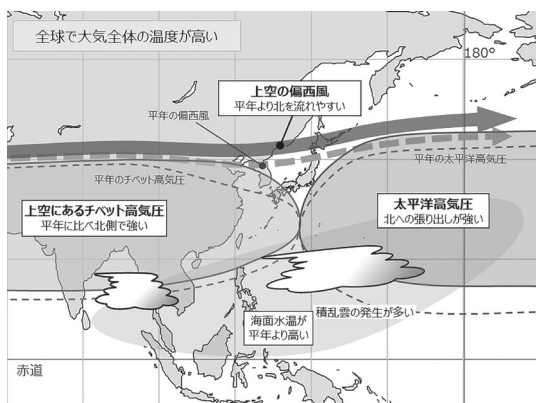
- ① 体内の水分を守ろうと、気孔を閉じるため、光合成が減る。
- ② 逆に日中の高温で気孔を開き、蒸散で水分を失う。
- ③ 夜、体温を下げようと気孔

を開けるため、夜の呼吸で貯蔵した炭水化物が失われる。

果菜類や果樹類の日焼け、葉菜のしおれ、そして水稲の乳白米や収量減などが代表例です。

どんな対策があるのか?

ハウス栽培では、遮光、かん水、細霧冷房など対策がそれなりにあるのですが、露地では効果的な対策はあまりありません。作期を変える、耐暑性のある品種に変更するといった抜本的な対応も必要だと考えます。



暖候期予報の解説図

ワンポイント農業気象(五月)

高温多湿による熱中症対策雨多ければ病害の予防対策